I 慢性腎疾患の診断・治療に関する研究
～研究目的・研究方法および3年間の研究予定について～
初年度の総括

分担研究者　酒井　糾（北里大学腎センター）
研究協力者リスト
伊藤　克己（東京女子医大腎センター）伊藤　拓（都立清瀬小児病院）
岡田　敏夫（富山医科薬科大小児科学教室）北川　照男（日本大学小児科学教室）
黒田　育子（国療東松本病院小児科）小板橋　靖（聖マリアンナ医大小児科学教室）
堺　薫（新潟大学小児科学教室）重松　秀一（信州大学病理学教室）
高田　恒郎（新潟県立吉田病院小児科）武田　修明（倉敷中央病院小児科）
永田紀四郎（弘前大学小児科学教室）服部新三郎（熊本大学小児科学教室）
藤原　芳人（小田原市民病院小児科）牧　淳（近畿大学小児科学教室）
村上　睦美（日本医大小児科学教室）山口　正司（国立医療センター小児科）
山下　文雄（久留米大学小児科学教室）吉川　徳茂（神戸大学小児科学教室）
和田　博義（兵庫医大小児科学教室）飯高喜久雄（北里大学小児科学教室）
河西　紀昭（北里大学小児科学教室）

慢性腎疾患の診断・治療に関する研究は，全国20施設の協力を得て向う3年間，幾つかのテーマに絞って共同研究することとした。

本研究班では慢性に経過する腎疾患として対象疾患を4ツに決め，retrospective study，と prospective study の両者を行う。

対象疾患は，小児期の特殊性を考え，

(1) 膜性増殖性腎炎（MPGN），　(2) IgA 腎症（IgA·N），

(3) 巣状糸球体硬化症（FGS），　(4) 紫斑病性腎炎（HSP·N）

の4つである。

(1)の MPGN については，都立清瀬小児病院腎内科の伊藤拓先生にグループリーダーとして研究のとりまとめをお願いした。初年度は後の報告にもある通り，各施設の症例登録，病型分類そして臨床病理学的検討がなされた。しかし本年度は初年度でもあり集計症例が十分でないため，次年度も retrospective に症例を集め本年度の検討結果と併せ，一つの治療法の案をだし，最終年度は prospective 症例に対して治療を行い，その効果を検討し

一つの結論を得たいと考えている。

(2)の IgA·N については神戸大学小児科の吉川徳茂先生にグループ・リーダーとして，研究のとりまとめをお願いした。初年度は後の報告にもある通り神戸大学小児科および都立清瀬小児病院の症例，150 例についての retrospective にその予後因子についての検討がなされた。第 2 年度そして最終年度にかけて協力研究施設の各々で新たに経験されたIgA·N 症例（昭和 58 年～ 60 年の間に第一回目の腎生検を有している症例）を対象に選び，病理学的，免疫学的，臨床経過そして治療法の検討を行い一つの結論を得たいと考えている。

上記 2 つの疾患は特に学技検尿を通して発見され，しかも比較的病初期の症例が多いので，出来れば追跡腎生検で病像の自然経過あるいは治療による修飾像についても検討したいと考えている。最終的には治療法についてのガイドラインを出したい。

(3)の FGS については近畿大学小児科の牧　淳先生にグループ・リーダーとして研究のとりまとめをお願いした。初年度は後の報告にもある通りアンケート方式にある全国調査が行われ，その集計結果が報告された。第 2 年度，最終年度については各研究協力者による FGS に関連した研究をお願いし，それらを詳細に検討し本症の本態・解明に迫る。

(4)の HSP·N については北里大学小児科の河西紀昭先生にグループ・リーダーとして研究のとりまとめをお願いした。初年度は後の報告にもある通り，retrospective な検討結果，即ち腎不全となり死亡，あるいは透析・移植へ移行した症例についての特徴について調べられた結果が報告された。第 2 年度はアンケート方式による全国調査を行い発症状況を調査し，病型分類そして臨床病理学的検討を行い，最終年度で各種病態に対しての治療法の在り方について検討したいと考えている。

(3)，(4)の疾患は学校検尿による発見とは直接関係せず，むしろ医療機関で見い出される疾患であるのでその頻度は医療機関によってばらつきがあり，取り扱う症例についてもその医療機関の設備状況によって重症度が異なっている。従って，この 2 つの疾患(3)，(4)については自由研究，つまり症例の提供は義務づけずに最初 entry された施設についてのみ研究の協力をお願いしている。

一方(1)，(2)の疾患は先にも述べた如く学校検尿による発見が多く，どこの地域でも共通の問題を抱えているので今回の共同研究に entry された全施設に対して症例報告の義務を負って載いた。なお病理組織については信州大学病理の重松秀一先生に一貫して見て載くこととした。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

慢性腎疾患の診断・治療に関する研究は,全国 20 施設の協力を得て向う 3 年間,幾つかのテーマに絞って共同研究することとした。
本研究班では慢性に経過する腎疾患として対象疾患を 4 ツに決め,retrospectivestudy,とprospective study の両者を行う。
対象疾患は,小児期の特殊性を考え,
(1)膜性増殖性腎炎(MPGN),
(2)IgA 腎症(IgA・N)
(3)巣状糸球体硬化症(FGS),
(4)紫斑病性腎炎(HSP.N)
の 4 つである。